

1/23/2011 悔い改めよ、神の国は近づいた マタイ4:12-17

主イエスは福音の宣教を以下の言葉で始められたとマタイの福音書は記しています。「悔い改めよ、神の国は近づいた。」「神の国」とはどのような状態を言うのでしょうか。悔い改めるとはどのようなことなのでしょう。

「神の国」の意味を理解するためには、当時のユダヤ社会の経済的、政治的、宗教的状況を概観する必要があります。

当時のユダヤの民は、二重の抑圧の下にあえいでいました。一つはローマ帝国、つまり皇帝シーザーによる搾取です。もう一つは、そのシーザーにこびを売っていたローマ帝国の傀儡でユダヤ人の王ヘロデによる搾取、抑圧です。

ユダヤの民は過酷な額の税金をシーザーとヘロデの両方に払う義務をさせられていました。ユダヤの民は、ローマ人から教養のない野蛮人と卑下され、その宗教は迷信に過ぎず、その文化は取るに足りないとして軽蔑されていたのです。

それに加えて、イスラエルの民は、彼らの宗教指導者達がヘロデと結託してローマ帝国にこびを売っている姿を日常茶飯事のように目にしなければなりません。このような政治的、経済的、宗教的状況の中で、彼らの多くは、生きる希望を失いつつあったのです。

主イエスはその福音を、このように意気消沈した人々に向けて語られたのです。現在の不正義と抑圧が蔓延している状況は決して神の思いではない。神の思い、それは人々が公平と平安に満ちた人間共同体の中で互いに支え合って生きていくことだ。

「神の国」とは、ヘロデやシーザーが座っていた王座に、慈しみの神がお座りになった状態、神の慈しみが人間の生活すべてに浸透した状態。「神の国」とはそれだ。抑圧が公平にとって代られた社会、不正義が正義によって克服され、平安と平和で満たされた社会、それが「神の国」だ。そう主イエスは言われたのです。

この雄大なビジョンは、既に旧約聖書の中で預言者によって語られたものでした。「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ」という預言者アモスの言葉はその一つです。「狼は子羊とともに宿り、豹は子やぎと共に伏す」という預言者イザヤの言葉はもう一つです。

主イエスは言われるのです。人間の人間らしさを私は身を以て明らかにする。預言者達の言葉は肉となって私の中に宿った、と。私を見た者は神の国を見たのだ、と。

しかしこの福音のメッセージは、ヘロデやシーザーに象徴されるこの世の権力にへつらう人には聞こえないのです。私たちはシーザーやヘロデに象徴されるこの世の権威に背を向けて、道であり、真理であり、命である主イエスへと向きを変える、つまり方向転換する必要があります。

悔い改めとは、この方向を変えるということなのです。主イエスに向かって歩くことなのです。つまり、悔い改めるとは、神の慈しみと愛を体現された主イエスを人生の規範として生きようと決意することと行って間違いありません。

それは決して楽な道ではありません。困難がともなう道です。しかし、決して不可能な道ではありません。何故なら、主イエスご自身が、不可能な生き方に私たちを招かれる筈はないからです。

勿論不完全で、弱い私たちは主イエスが示された神の国への道を完全に歩くことはできません。違った道にのめりこんだり、正しい道から脱落しかけることはしょっちゅうでしょう。しかし、主イエスは完璧、完全無比を私たちに要求されているわけではありません。「最善を尽くしなさい、出来るだけのことをしなさい。後は私が引き受ける。」そう言っておられるのです。

「悔い改めよ、神の国は近づいた。」これ程私たちに勇気づけ、元気づける力強い言葉はありません。